

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人社団向仁会グループホームよるこびの家 住慶 福	評価実施年月日	平成20年12月10日
評価実施構成員氏名	水山 酒井 種田 高松 岩村 沼田 石村		
記録者氏名	水山	記録年月日	平成20年12月26日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	よるこびの家住慶として職員全員で話し合い決めた理念がある。又、新規職員へは採用時に説明を行い、事業所の理念の把握に努めていく。	理念の変更・追加等がある場合は会議等できちんと話し合っている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝礼時に職員全員で集まり、理念の確認・実践出来る様に取り組んでいる。また、業務中に職員同士で話し合い理念に沿った業務を行うように努めている。又、理念をスタッフルームや共有スペースに掲示し共通の認識を図っている。	朝礼時に職員全員で集まり、理念の確認・共有し実現に向けて取り組んでいきたい。業務に励みながら、理念の実践を行って行きたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	理念を建物内(玄関、廊下、多目的室)に誰でも見れるように掲示している。また、入居時や面談時に、地域に対しては2ヶ月に1度開催する運営推進会議等でも議題にあげて説明をしている。	ご家族や職員には理解されているが、地域の方への理解を深められるようにこれからも交流の場での、理念についての説明と話し合いを行いたい。今後も継続を行う。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	外出の際などに近隣への挨拶や日常会話等をしている。また、広報誌を定期的に作成し町内会の回覧板へ入れてもらっている。行事の際には近隣の方の参加もあり気軽に立ち寄ってもらえるように努めている。	行事だけの参加ではなく、普段からの付き合いを大切に、少しでも事業所の理解を深めてもらうように努めて行きたい。ふれあいの機会を設けられるように地域へ働きかけていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会や近隣での催し物に参加させてもらっている。又、町会で行っている資源回収に協力したり、ボランティア等を招いてのお付き合いを行っている。	今後も地域との交流が出来るように働きかけ、様々な交流がもてるように広報誌などに力を入れて頑張っていきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町会の福祉に関する相談等の助言を行っている。身近な所では散歩等を行っている時に近所に住まわれている高齢者のお話し相手にもなっている。2ヶ月に1度運営推進会議を定期的開催し、地域への福祉の還元を努めている。	運営推進会議を通じて、地域に福祉の還元を行う機会を、協力し合い行っていきたい。少しでも事業所として地域に役立てるように考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>評価された結果を活かして、管理者を中心に職員全員で改善に努めて行きたい。また、入居者や家族にも評価の意義を理解してもらえるように自己評価の書類をスタッフルームの前に置き、事業所の取り組みや改善の内容を把握してもらえるように努めていく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>会議で出された要望を聞くだけでなく、全員が要望に答えられるように取り組んで行きたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>サービス担当者会議等にも参加し、サービスの向上に取り組んでいる。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>入居が長くなるにつれ、身元引受人の状況も変化することが見込まれるので、活用も視野に入れている。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>身体拘束廃止委員会を設置して、身体拘束・様々な虐待等について話し合い、防止に努めている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>きちんとして契約に対して納得いただけるように、丁寧な説明を行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者からの要望があるときは、その都度対応を行っている。判断の難しいときは家族と相談行い対応している。また、苦情受付窓口を設けているため、随時職員全員での情報の共有と改善策の話し合いを行っている。		信頼関係を築き意見の言いやすい環境作りに努めている。不満は情報を共有し早期解決に努め、苦情も受付担当を決め、適正に処理を行っている。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	電話連絡・毎月の請求書類の発送時にお知らせや広報誌を作成して送っている。また、面会時にも職員より報告を行っている。		健康状態については面会時他、定期的に報告を行っている。金銭の管理については、毎月の請求時に明細を送り、金銭の出し入れを詳細に伝えている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口を設置し、意見・苦情等を運営に反映させている。また、モニタリング・サービス担当者会議・運営推進会議等でも意見等を聞く機会を設けている。又、意見箱の設置を少しでも意見の言いやすい環境作りに努めている。		職員写真を掲示し、職員の顔を知ってもらえるように取り組んでいる。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議等を定期的実施して意見を聞いている。		意見が出た際は全体管理者会議で話し合い、運営者へ反映出来るように努める。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	スタッフ会議等で話し合いを行い、勤務の調整を行っている。又、管理者との個人面談も行われている。		入居者が毎日の生活をゆったりと過ごせるように、きちんとした勤務が出来るように努めている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員と入居者がなじみの関係を築けるようにする為、職員の異動・離職を最低限に抑えている。		定期的な職員との面談を行い、職員の気持ちの把握に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修係りを選出し、定期的に勉強会を実施している。また、外部での研修会にも積極的に参加し、職員の質の向上に努めている。</p>	<p>全員がそろって参加できることは難しいが、出来るだけ職員のやる気を大切にして、必要ならば勤務の調整等も行い職員の向上に努めている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム連絡協議会のブロックで親睦会や勉強会を行い交流する機会を設けている。</p>	<p>出来るだけ意見の交換や交流の機会を持てるようにしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>相談事がある場合は管理者へ相談出来るよう環境を作っている。また、職員同士で親睦会や交流会を行って取り組んでいる。シフト作成時に希望休等の意見を聞きストレス軽減の工夫を行っている。</p>	<p>職員同士で言えない事やストレスの軽減の為、管理者が中心となり働きやすい工夫をしていきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>契約更新時に人事考課を行い個々に合った指導を行い向上心を持ってもらうように努めている。</p>	<p>向上心を職員が持つことにより、更にサービスの質が上がると思うので、職員の向上心が上がるように管理者が中心となり、運営者へ働きかけていきたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>担当者が入所に至るまでに、十分にご本人との話し合いを行っている。</p>	<p>入居者の目線に合わせて、きちんとした信頼関係を作るように努めている。又、入居窓口の担当者は認知症ケア専門士の資格を有しており、認知症のお世話をしているご家族との信頼関係を築くのにも長けている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>担当者が入所に至るまでに、十分にご家族との話し合いを行っている。</p>	<p>言いにくい事もあると思うので、親身に話を受け止めるように努めている。又、入居窓口の担当者は認知症ケア専門士の資格を有しており、認知症のお世話をしているご家族との信頼関係を築くのにも長けている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当者がご本人とご家族と十分に話し合いを行い、その時必要とされる支援方法を決めている。		情報収集をきちんと行い、きちんと個々に合った支援方法を行うように努めている。虐待等の緊急性の高いケースは優先できるようにしている。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居される前からの段階での見学やパンフレットの配布等を行い、ご本人に考えてもらえるように努めている。可能であれば本人への見学を勧めている。		入居者の生活歴や習慣をきちんと知り、きちんとした対応を職員全員が出来るように努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に生活することにより、支え合う関係を築いている。入居者から学ぶことは多いので、日々の生活の中で信頼関係を築いている。		一方の立場にならない様に、入社時のオリエンテーションできちんと管理者より説明を行っている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時やサービス担当者会議時にご家族と話し合い、ご家族・ご本人共に親しみのある関係を築くように努めている。		家族でなければ知らないことや、家族でないと言えない事もあると思うので、きちんと家族とも情報の共有を行い共に支援できるような体制を築いている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時にご家族とより良い関係を築けるように、情報提供を行っている。(例、日常生活等の情報)		行事等にご家族を呼び、入居者とのご一緒の時間を提供している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族のご協力のもと、ご本人が行いたい所へ行く支援が出来ている。かかりつけの病院へ通院したり、元の職場等への同行の支援も行っている。		今後も継続して馴染みの関係を作っていけるような支援に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日常的に入居者同士が過ごし、交流を深めている場面がよく見られている。また家事の場面や日常生活においても入居者同士が声かけや誘導等の助け合う場面も見られる。		毎日の交流を深め、ゲームや遊びを通じて仲間意識が育っている。家事等では役割分担も出来ており、時には他の入居者へのお世話する様子も見られている。これからもこの関係を大切に、より入居者同士の係わり合いの場面を作りたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院により退居された入居者の所へ機会を見つけて見舞いに行ったり、お手紙を作成している。		ご家族のご了承を得て契約の終了された方の見舞いに伺っている。又、葬儀にも参列したことがある。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方に合った課題を明確にして、その人らしい生活が出来るように努めている。		言葉のみにならず、うなずきや表情からも思いを把握するように努めている。モニタリングやケアカンファレンスそしてスタッフ会議等で話し合い検討している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活暦を参考にしたケアを実施し、そのケアの中から、経験・出来事・思い出を聴き今後に生かすようにしている。		家族関係、職歴、趣味などのアセスメントに力を入れている。一人ひとりとお話を行い、色々と情報を聞きだせるように努めている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	「ちょうじゅ」という記録システムを使用し、日々の生活等の把握に努めている。		小さな変化や気づきを記録に入力している。生活を知ることにより、何か些細なことでも発見できるようになると思うので、職員全員で個々の生活のリズムを把握できるように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日の記録、ご家族からの情報を集めて状況把握すると共に、介護計画を作成する時はご本人、ご家族、主治医からの意見を求めて作成している。		サービス担当者会議、ケアカンファレンスの場を活用し、本人、家族、関係者ときちんと話し合いを行い、反映された介護計画の作成に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しは必ず3ヶ月ごとに実施しており、また状態の急変時には随時アセスメントを行っている。		介護支援専門員を中心とした対応を行っている為、現状に合った計画を作成している。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	「ちょうじゅ」という記録システムを使用し、入居者の日々の変化や状態を具体的に記録している。そしてその中より介護計画の見直し・追加等を行い活かしている。		今後も更に情報を活かし、その方に合った介護計画を作成できるように努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	様々な状況の変化に対応するためにきちんと設計されている為、その方にあった支援が行えている。		本人・家族からの要望の吸い上げを職員全員で取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	提携施設・近隣との協力体制を密に取れるように努めている。		地域の様々な機関との連携を図り、支援している。(例、学校・保育園・町内会・消防署等)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在はまだないが、今後訪問看護等とも協力しあうことも予想される。		今後、必要に応じて本人と話し合い支援するように努めていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の出席や、見学者を連れての訪問等も行い協働している。		包括支援の役割を知ってもらい、様々な事に対して協力体制を築いていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	母体の施設より医療連携をとり、健康管理を行ってもらい指示を受けている。		かかりつけの病院へ付き添う等の支援を行っている。今後、より一層医療連携看護師との連携が必要となっていくため、互いに協力していきたい。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	母体の医療機関に認知症ケア専門士の資格を持つ医師がおり、必要に応じて助言・指示を受けられる体制を確保されている。		他の医療機関へ通っている方の対応もきちんと出来るように、支援していきたい。
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に1度医療連携看護師による健康管理を行い、支援している。		24時間いつでも看護師への連絡が可能なので、早急な対応でも可能である。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には当ホーム相談員と入院先の医師やソーシャルワーカーとの話し合いをしており、連携を取り合っている。		早期退院を目指し、入院先の医療機関との連携を行って行きたい。また、入居者の面会等も行い精神的な支援も行えるように努めていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について看取りの方針がある。		これからは症状の重度化や終末期の対応も必要となるため、きちんと職員全員で対応していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在は行っていないが、今後の変化に対しては主治医・医療連携看護師等との連携を行い、体制は出来ている。		これからは症状の重度化や終末期の対応も必要となるため、きちんと職員全員で対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	移動の際には担当者が十分な話し合いを行っている。又、事前の見学を行い、情報の収集に努める。移動後は十分に観察を行い、職員間での情報の共有に努めている。		担当者が中心となり住替えのダメージを最低限に防ぐように努めている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉使いや個人情報の取り扱いには、最善の注意を払い取り扱っている。理念に基づき入居者個人の気持ちを考慮した声かけ対応を行っている。		業務にあたって入居者の立場になった対応を行えるように職員同士きちんと協力し合って対応している。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	こちらで決して決めずにご本人の意思や希望を考慮した支援を行っている。介護計画作成時に本人の意向を確認している。		入居者の思い出等を引き出すように努め、自己決定が出来るように支援している。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日頃より入居者の自己決定を尊重し、自由に本人のペースでの暮らしを支えている。		業務優先の考えを止め、ケアを行うように職員同士話し合っている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の今までの生活歴を考えて、その人らしい服装や身だしなみを行えるように支援し、また季節感のある服装や髪型にもおしゃれが出来るようにも支援している。		訪問理美容や馴染みの美容院にも職員が付き合い同行している。今後はより本人の希望を考慮し外出する機会を増やしたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	給食係りを決めて積極的に、入居者の好みに合わせた献立作りに努めている。食事でも楽しく食事が出来るように環境作りに勤めている。食事の準備や後片付けも職員と入居者が共に行えるようにしている。		職員と入居者が全員で食卓を囲み楽しく食事が出来るような環境作りを行っている。今後も本人の病状等も考慮しつつ、食事を楽しめるように支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	外出や買い物の機会を作って、日常生活の支援を行っている。また、訪問販売を利用し、買い物ができるように支援している。タバコを吸う入居者はいないが、喫煙される際は他者に迷惑がかからないように配慮し行うようにする。		お酒を飲む方が出来たのだが、主治医や看護師との協力をを行い提供している。出来るだけ入居者の希望をかなえて上げられるように努める。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	気持ちよい排泄を目標に上げた介護計画を作成しているケースがある。記録を参考に一人ひとりの排泄パターンを把握し、ケアプランに沿った支援をしてる。		排泄パターンを把握し、必要時には下剤等の調整を行い介護計画に沿ったケアを行い、少しでも自立に迎えるような、援助をしていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間や回数を気にせず、入居者の希望に合わせた、入浴の支援を行っている。		入浴の回数の少ない方への入浴のお誘いや、気兼ねなく入浴できる環境作りに努める。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	常に入居者の身体状況を把握し、無理のかからない生活を送れる様、心がけを行い、日々の記録を参考に一人ひとりの睡眠パターンを把握し支援している。		生活リズムを考慮した声かけや眠りの少ない方へのお昼寝の声かけ等に努めたい。夜間も安眠できるように様子観察や就寝役の服薬の管理を行なっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々に合った役割作りを行い、活躍の場を作ることで、本人に自信を持って生活できるようにしている。		頼む際言葉がけ。終わった後の感謝の言葉を忘れずに実施している。又、楽しむ事への支援を今後、増やしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	出来るだけ本人に金銭を管理してもらい、買い物等を行っている。		出来るだけ本人にお金を渡して使用してもらい、お金への理解を忘れないようにしてもらい。買い物への声掛けを行いお金を使用する感覚を持ってもらう。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者の自己決定の権利を大切にして、希望に沿った外出が出来るように支援している。		今後も外出する機会を多く設けていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族のご協力のもと、本人の希望する場所へいけている。また、行事等でも外出する機会を増やしている。		行事係を中心に花見や紅葉会等の行事を行い出かけている。又、家族の支援で遠方へ外出される方もいる。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話をホーム内に設置して利用したり、ホームの近くにポストがあるため、手紙を投函しに行ったり、携帯電話(本人持ち)を使用したりしている。		希望に応じて家族や友人との連絡が出来るように支援していく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間を特に設定せずにして、家族や馴染みの人の訪問は自由に出来る環境にしている。面会時にはお茶をお出しし、入居者の近況を話しています。		今後も家族等からの意見も引き出し工夫していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置しており、職員全員が理解できるようにしている。		定期的に勉強会を開催し常に意識して業務が出来るようにしている。また、少しでも疑問があるときは職員同士での確認や管理者への質問が出来るようにしてある。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵をかけることは無い。玄関は防犯の為、夜間は施錠しているが、日中は鍵をかけずに出入りできるようにしている。		出来るだけ見守りのみで出来るように努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中は職員同士が連携をとり、把握に努めている。夜間はプライバシーを考慮し、見守りを行い把握に努めている。</p>		<p>職員同士の連携の向上に努めていきたい。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>一人ひとりの状況を見て、物品の配置を行い危険を防いでいる。</p>		<p>職員がそのときの状況に合わせて、危険がないように物品の保管、管理を行なっていく。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故防止委員会を設置しており、事故に対して話し合いを行い、事故の防止に努めている。</p>		<p>月に1度事故防止委員会での会議と勉強会を定期的に行い、勉強を行っている。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急時のマニュアルを作成して、職員への熟知を心がけている。職員の目の届く場所に掲示してある。また掲示している書類もわかりやすく簡潔に作られている。</p>		<p>研修係を設置して勉強会を定期的に行い、勉強を行っている。また、消防で実施している講習も参加して勉強している。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年に2度、消防署立会いの避難・誘導訓練を実施している。</p>		<p>防火管理者の資格を持つものがいるので、防火管理者中心に勉強会を開き、避難方法等の勉強を行っている。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>担当者より十分に説明を行っている。</p>		<p>家族との話し合いも大切だが、初めに十分に職員全員で話し合いを行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>医療連携を取っているので、緊急時には担当の看護師より指示をもらえるようにしている。</p>	<p>小さな気づきにも申し送りを行い、情報の共有に努めている。緊急時には24時間いつでも看護師への連絡が可能なので、早急な対応でも可能である。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方箋を職員全員で確認することにより、職員全員で薬の理解を行えるようにしている。服薬の際に十分な様子観察と服薬管理を行ない用法、用量を守っている。</p>	<p>薬の変更時には、きちんと情報交換を行っている。また、わからない点も医療連携の看護師に聞くことも出来る。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>十分に水分の摂取を行ってもらっている。便秘気味の場合には、牛乳やヨーグルト等を提供することにより対応している。</p>	<p>運動は状況を見て、声がけを行い運動を行っている。今後も定期的に便秘についてや脱水症状についての勉強会を行う予定である。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>起床時・就寝時に口腔内の清潔を支援している。出来るだけ本人に口腔内の清潔に取り組んでもらうように本人にも手伝ってもらっている。また、何か異常がある場合は、訪問歯科を行い対応している。</p>	<p>毎食後、行っていない方へも声がけを行い、清潔の保持に取り組んでいる。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量・水分量については必ず記録に残している。個々に合わせてお粥やキザミ食、糖尿病の方への調整等を行っている。</p>	<p>職員で献立を作っている。その際に各種調理本より情報を引き出し健康に良い食事と個々の嗜好に合わせた献立を立てられるように工夫している。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症に対してマニュアルがあり、理解を深めるように実施している。</p>	<p>今後も感染症に対しての知識を深めていくことが大切である。その為に職員一人ひとりがきちんと意識して実行している。又、研修会を設置しているので研修会でも感染に対する勉強会を行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	毎日必ず調理場・調理器具の洗浄・消毒を行い衛生環境の保持に努めている。		季節に応じての消毒・清潔に努めている。また、調理の際には必ず検食を行い何かあった際の対応も行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関周りに植物を置き、季節に応じた物を置き、雰囲気作りに配慮している。		季節に応じて雛人形やクリスマスツリー等を飾っている。今後も様々な工夫を行い、圧迫させない環境作りに努めたい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	テレビ・テーブル等の配置を工夫し、季節を感じてもらえるような植物の配置や飾り付けを行っている。また、入居者同士と一緒に過ごせるようにソファの配置を工夫している。		今後更に家庭的な環境作りを工夫して、入居者が住みやすく、季節を感じることが出来るように努めたい。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	玄関・ホール・多目的室等の場所があり、居室以外にも入居者が思い思いの場所で過ごせるようになっている。庭にはベンチ、玄関には椅子、和室には座布団ホールにはソファやマッサージチェアを配置している。		食事の際の配置の工夫、状況に合わせた空間作りに努めている。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	居室には使い慣れた生活用品を配置してもらい、居心地良く過ごせるように工夫している。		今後も本人や家族と話し合いを行い、取組んでいきたい。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	入居者と話し合い換気を行っている。冷暖房完備なので、季節に応じて正しく調整を行っている。		定期的な空気の入替え、夏季・冬季の温度調整に常に注意していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下・浴室・トイレ等には手すりが配置されており、ホーム内は全てバリアフリーになっている。</p>	<p>車椅子の自走の方のためにソファの位置を工夫している。玄関へは椅子を置き自分で靴を履いたり、脱いだり出来るようにしている。これからも入居者の生活を見て、より安全な環境を作れるように努める。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>個々に合わせた支援を行い、決して本人を不安にさせないように援助していく。</p>	<p>献立を掲示しわかるようにしている。日々、入居者を見て、そのときに合った、環境作りに努めたい。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭が整備されており、植物や家庭菜園がある。又、庭でバーベキューやベンチにて日向ぼっこ、植物への水やり、雑草の草むしり、ベランダでの洗濯物干し等も行い活かしている。</p>	<p>夏季や天気の良いときにはどんどん活用行い、身体機能の向上、又気分転換等を行えるような環境として活用していきたい。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない	入居者がグループホームに来る前の生活暦や習慣を維持できるように考えている。また、個々に合わせて対応する事により、その人らしい生き方と楽しみを見つけれるように支援して行く。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	業務の中で時間を見つけてゆったりと生活を行っている。食事の時間やおやつ時間・買物・ドライブなども行き時間経過している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	個々の時間を持っており、毎日時間にとられることなく好きな時間を暮らしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	利用者が職員と共に生活を行い、個々に合った支援方法を行うことにより毎日を笑顔で過ごされている。又、不安な表情等が見られた際には積極的に声掛けを行い、不安等を取り除く取り組みを行っている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	入居者の希望に沿った外出の支援が出来るように、職員全員で気を配っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	週1回の医療連携の体制が確立されており、体調の変化がおこった場合も、24時間看護師との連絡体制も出来ている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない	入居者の要望に合わせた対応を行い、安心した毎日を送ってもらっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない	面会時に家族との会話の中で、訴えを聞き解決策を話し合っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	訪ねてきている間隔はそれぞれあるが、見学や面会等により馴染みの方が増えてきている。

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	毎回きちんと全員参加するのは困難だが、理解者や応援者が増えてきている。今後も少しずつでも地域とのつながりを深めていきたい。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員は毎日を楽しみ、理念に基づいて仕事を行っている。又、先輩職員が新人職員への助言やサポートも行なえてきている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	満足してくれているが、これからも個々に合ったサービスを行って行きたい。状況に満足することなく取り組んでいきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	面会時や担当者会議等で家族より要望等を聞き入れているので、満足されている。これからも全ての家族に満足していただけるように努めて行きたい。
【特に力を入れている点・アピールしたい点】 (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)			入居者がグループホームでの生活を、毎日お変わりなく過ごされるように職員全員で取り組んでいる。これからの毎日が入居者にとって良い思い出になる様にしていきたい。又、当事業所以外にも提携のグループホームがあるため、互いに意見交換を行いサービスの質の向上と改善に努めている。又、事業所内外での研修等にも積極的に参加し、介護職としてのプロフェッショナルとしての経験を積んでいけるように取り組んでいる。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所) 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人社団向仁会 グループホームよろこびの家住慶 寿	評価実施年月日	平成20年 12月10日
評価実施構成員氏名	伊藤 上木 佐藤 井川 影山 寺田 小林 立寄 安澤		
記録者氏名	伊藤	記録年月日	平成20年 12月28日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>職員全員にアンケートを行い理念を構築し、各所に貼り付けて実現へ向けて取り組んでいる。</p>	<p>理念の変更や追加等がある場合は、会議等できちんと話し合っている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>常に目に付くところに掲示したり、朝礼時に参加職員と一緒に理念の確認や唱和を行い、実践できるように努めている。</p>	<p>新規職員の採用時には理念の意味や説明を行い、職員全員で共有し実現に向けて取り組んでいける体制を作っている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>理念を建物内(玄関や廊下、多目的室)に誰でも見れるように掲示している。家族への説明は面談時や入居時に入居担当窓口や管理者が説明を行い、同意をいただいている。地域へは、隔月に行われる運営推進会議にて議題に取り入れ、説明を行っている。</p>	<p>職員や利用者の家族に対しては浸透されているが、地域への理解を深めて行ける様、運営推進会議などで引き続き取り上げて対応していく。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣への外出や散歩などで、地域住民との交流を図っている。また、広報誌を作成して町内会の回覧板と一緒にまわしてもらい、ホームの活動内容などを紹介できるよう協力をお願いしている。行事(もちつき大会や、七夕など)の際には近隣のかたに気軽に参加できるよう気軽に立ち寄っていただけるよう声掛けを行ったりして努めている。</p>	<p>行事のみの参加だけでなく、普段からの付き合いを大切に、少しでも当事業所の理解を深めてもらうように努めていきたい。また、ふれあいの機会を設けられるように地域へ働きかけていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会や近隣での催しものに参加させていただいている。町会の資源回収や、ボランティアをお願いして交流を図っている。</p>	<p>地域の行事に積極的に参加し、交流が深められるよう努めている。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>民生委員を通して町内会の福祉についての相談や助言を行なっている。また、隔月に運営推進会議を行なって地域の高齢者の状況などを聞きながら、地域へ還元できるよう努めている。</p>	<p>運営推進会議を通じて、地域に福祉の還元を行う機会を協力し合い行なっていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>評価された結果を活かして、管理者を中心に職員全員で改善に努めていきたい。また、利用者や家族にも評価の意義を理解してもらえるように自己評価表をスタッフルームの前に置き、事業所の取り組みや改善の内容を把握してもらえるように努めている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>議事録を通じて、職員全員で要望に応えていくことができるように取り組んでいきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>利用者のサービス担当者会議にも出席していただき、意見をいただきながらサービスの向上に努めている。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>入居が長くなるにつれ、身元引受人の状況も変化する可能性もあるため、定期的に職員間の勉強会を設け、対応していきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>身体拘束廃止委員会を設置しており、拘束や虐待の事例検討を職員全員で行いながら意識を高めて防止に努めている。また、新規採用者にはオリエンテーションを行い、虐待や拘束に関する感想文を書いてもらい、高齢者に対する虐待・拘束防止の意識を持ってもらうよう取り組んでいる。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>今後も丁寧な対応を心がけ、ご理解いただけるよう配慮していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情窓口を設置してその都度対応させていただいている。また、判断が難しい場合はスタッフ会議や管理者会議等で話し合い、運営者に報告を行っている。		日常生活にて様々な会話の中から汲み取り、不満や苦情がある場合にはスタッフ会議を通じて職員全員で情報を共有し、適切に対応を行っている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	主に面会時に日々のご様子を報告させていただいている。また、毎月の請求書類にホームで作成している広報誌を同封したり、遠方のご家族には手紙を書いてお知らせをしたり、電話報告も行っている。		健康状態や金銭の管理等について電話報告をさせていただいている。また、請求書類と一緒に預かり金の台帳のコピーと領収書も一緒に送付している。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口を設置し、意見・苦情等を運営に反映させている。玄関に意見箱を設置して、直接意見を伺えなくても、気軽に利用できるように配慮している。		出された苦情や意見に関しては、管理者会議等を通じて運営者に報告し、速やかに対応出来るよう努めている。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議を定期的に設けており、その都度意見を聞いている。		そこで出された意見は、全体管理者会議で話し合い、運営者へ反映できるよう努めている。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日々の予定や業務内容等に合わせて、その都度管理者が調整し行っている。		不具合があればその都度スタッフ会議や個人面談を行い、利用者の不便にならないよう配慮し、勤務調整を行っている。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員と利用者やその家族と馴染みの関係を築けるようにするため、異動や離職防止に努めている。		管理者は職員と定期的に面談を行っており、積極的に離職防止に努めている。また、必要最低限の人事以外は特別な理由が無い限り、異動させることがないよう配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		<p>職員のやる気、また知識や技術の面で情報の共有化ができるように勤務調整などを行って職員の質の向上に努めている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		<p>グループホーム協議会のブロック会議などで、今後より一層意見交換の場や親睦を深めていけるような取り組みの話し合いを進めている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>管理者は常に職員が働きやすい環境作りに取り組んでおり、面談を通じてストレスや悩みの軽減に努めている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>人事考課表を作成することで、これまでの反省や今後に対する目標ができ、向上心を持って働くことが出来るように取り組んでいる。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>利用者の目線に合わせて、入居前後に対する不安等の解消に努めている。また、担当者は認知症ケア専門士の有資格者であるため、認知症を抱えているご家族への配慮が長けており、信頼関係を有効に築くことが出来ている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		<p>入居前後に関するあらゆる事柄について相談に乗り、必要であれば他の利用者の事例を持ってどのように対応しているかなどを具体的にお話ししたりして安心や信頼していただけるよう配慮を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当者がご本人やご家族と十分に話し合いを行い、その時必要とされる支援方法を決定している。		個々にあった支援方法を的確にアドバイスが出来るように、情報収集を十分に行って対応している。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	可能であればご本人も見学できるようにご家族に協力してもらい、安心して生活ができるよう配慮している。		利用者の生活暦や習慣を尊重し、入居後も崩れることなく安心して生活してもらえるよう努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者を第一に尊重し、利用者から学ぶ姿勢を大切に信頼関係を築けるよう心掛けている。		理念にもあるように利用者第一をモットーにし、一緒に生活をする事で信頼関係を築けるよう取り組んでいる。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時やサービス担当者会議時にご家族と話し合い、ご家族やご本人共に親しみのある関係を築けるように努めている。		ご家族でなければわからないこと、言えない事、出来ないことを一緒に考えて支援できるような体制を築いている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会時にご家族とより良い関係を築けるように配慮をしている。(例 日常生活の様子などの情報提供等)		月ごとの行事にご家族をお招きするなどして、ご家族とのひと時が持てるよう配慮している。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族のご協力のもと、ご本人が行きたいところへ行く支援体制が出来ている。かかりつけの病院や、美容室、自宅などの同行の支援も行っている。		グループホームに入居されても、以前の生活を継続することが大切だと職員全員が考えているため、そのような支援体制を継続して行っていくことができるよう努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士、自由に交流できるように、家具の配置などを配慮している。また、家事支援などから交流が持てるようにその都度声掛けを行ったりしている。		職員と利用者が一緒になり、何事も楽しめる時間を持てるように配慮している。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	転居された後も、その方の家族が来られたり、電話にて近況報告や葉書を下さったりしている。		退居された後も、気軽にご相談に来られるように、こちらからお知らせを送付させていただいたり、許可を頂いて転居先へ訪問したりしている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者に合ったケアの提供が出来るように、本人の希望や意見を気軽に言える環境作りに努めている。		言葉だけでなく、顔みや仕草、日常生活の中からも本人の思いを把握できるように努めている。モニタリングやカンファレンス、スタッフ会議などで話し合い、その都度検討を行っている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活暦を参考にした介護計画書を作成し、そのケアの中から経験・出来事・思い出を聞いて、今後に生かせるようにしている。		日々の生活や、本人・家族から聞き出した情報は、その都度フェイスシートに書き足したり、一人ひとりの支援経過を作成してそこに記録し、アセスメントをするときの判断材料として活用している。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者の記録はすべて「ちょうじゅ」という記録システムに入力し、日々の記録を行っている。		変化や気づきがあったときにその都度記録を行い、生活を把握することで、急変時の対応に役立てるように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日の記録、ご家族からの意見や本人の希望・主治医の意見を取り入れて介護計画書を作成している。		不明な点や判断が難しい事例があったときには、介護支援専門員から助言をもらって、サービス担当者会議やケアカンファレンスにて話し合いを行い、出された意見を反映させた介護計画書を作成するよう心掛けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画書に見直しは3ヶ月ごとに必ず行い、状況に応じてアセスメントをし、介護計画書への追記などを行っている。		不明な点や判断が難しい事例があったときには、介護支援専門員から助言をもらって、サービス担当者会議やケアカンファレンスにて話し合いを行い、出された意見を反映させた介護計画書を作成するよう心掛けている。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は介護計画書に基づいて「ちょうじゅ」へ記録入力し、職員全員が情報を共有したり、ケアの実践や見直しを行っている。		会議などで全員が集まり、全員の意見を聞くことは勤務体制上難しいので、日々の記録の中から意見を吸い上げたり見直したりすることで、より良いケアを行っていきけるよう努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	様々な状況の変化に対応出来るよう設計されているため、その方に合った支援を行っている。(例 夫婦部屋の活用など)		ご本人やご家族からの要望などは、できるだけ吸い上げていき、いつでも柔軟に対応出来るよう取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	提携施設や近隣との協力体制を密に取れるように努めている。		運営推進会議を通して地域の様々な機関との連携を図り、支援をしている。(例 学校・保育園・町内会・消防署など)
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在のところ利用している方はいないが、希望があった場合は必要に応じていつでも対応出来るようになっている。		地域包括支援センターや、提携施設等に相談して、希望があったときには対応できる協力体制が整っている。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の出席や、見学希望者と一緒に訪問されたりして協働している。		包括支援センターの役割を知っていただき、利用者への支援等に対して協力体制を更に築いていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前と変わらずかかりつけ医に通院を行っている。また、かかりつけ医が居ない場合は、母体の施設にクリニックがあるので、本人や家族と相談の上おすすめている。</p>		<p>継続して通院することにより、入居前後の体調管理や情報を得やすいため、今後もできるだけかかりつけ医への通院を継続して行っていきたい。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>母体の医療機関に認知症ケア専門士の資格を持つ医師がおり、必要に応じて助言や指示を受けられる体制を確保している。</p>		<p>主治医でなくても相談できる体制になっているので、その都度ご家族や本人と一緒に、認知症に関するあらゆる事項を解決できるよう努めている。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>母体の施設より医療連携を図っており、週に1度健康管理に来ていただき、相談や指示を受けている。</p>		<p>24時間携帯電話にて連絡を取れるため、急変時でも迅速に対応してもらっている。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には管理者や入居窓口担当者が中心となって、入院先の医師やソーシャルワーカーと密に連絡を取り合い、早期退院に努めている。</p>		<p>入院中の利用者との面会は勿論のこと、ご家族とも連絡を取り合い、早期退院に向けて入院先の医療機関と連携を取れるように努めている。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合や終末期の在り方について看取りの指針がある。</p>		<p>今後は現在よりも重症化や終末期への対応に向けて、利用者が安心して生活が出来るように職員是認で支援していきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>現在重度化した利用者は居ないが、そのときの為に対応するため、主治医や医療連携看護師などと連携をとり、終末期ケアができる体制を整えている。</p>		<p>今後は現在よりも重症化や終末期への対応に向けて、利用者が安心して生活が出来るように職員是認で支援していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>移動の際には担当者が十分な話し合いを行なっている。また、事前の見学を行い情報収集して、極力ダメージを少なくするように努めている。</p>		<p>担当者が中心となり、住み替えなどによるダメージを防ぐように環境作りや精神的なケア等を中心に行っている。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>言葉遣いや個人情報の取り扱いには、最善の注意を払い取り扱っている。理念に基づき、利用者個人の気持ちを考慮した声掛けや対応を心掛けている。</p>		<p>利用者の立場になった対応を常に心がけ、業務にあたるよう職員一人ひとりが意識して対応するよう努めている。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。</p>	<p>利用者との関わりを多く持ち、声掛けなどでご本人との距離を密にして、意思や思いを表せるような雰囲気作りを行っている。</p>		<p>利用者の意思や希望を尊重した介護計画書に基づき、ご本人が安心して生活が出来るよう支援を行っている。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりの生活パターンに合わせて、利用者の暮らしを支えている。</p>		<p>職員の仕事を優先するのではなく、その日の勤務者で話し合いながら、その時々利用者の状況に合わせて業務にあたっている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>当日の気温や季節に合わせた服装と一緒に選んだり、散髪は馴染みの店を利用したり、出張理容を利用したりして対応している。</p>		<p>本人の意欲を上手く引き出せるような声掛けと対応をその都度行っている。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>給食係を中心に、利用者の好みに合わせた献立作りを行っている。本人の嚥下状態や体調に合わせて、お粥やキザミ食の提供をさせていただいている。また、食卓の準備や片付けは利用者と一緒に、交流の場として作業を行っていただいている。</p>		<p>今後も高齢者に合わせた食事メニューを考え、職員と利用者が一緒に楽しんで食事が出来る環境づくりに取り組んでいきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	主治医からの制限が無い限り、自由に楽しんでいただけるよう支援している。喫煙に関しては、消防からの指導もあって、喫煙場所を定めてそこで喫煙していただくよう協力をお願いしている。		今後も利用者が自由に楽しんでいただけるような体制を継続していきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄困難な方には、排泄に関連したケアプランにて対応させていただいており、あくまでも本人の排泄ペースに合わせて気持ちよく過ごしていただけるように支援している。		あくまでも本人に合わせ、苦痛を感じることがないように配慮して、自立へ向けた支援を行っていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望の時間や曜日に合わせて、自由に楽しんでいただいている。		左記に対応できるような、勤務時間の調整をおこなっている為、今後も継続して支援していく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者の睡眠パターンを把握して、状況に合わせて昼寝や休息をすすめたり、寝付かれないときが続くようであれば主治医に相談して、その都度対応している。		生活リズムを考慮した声掛けや、安眠の確認、就寝薬の管理等を行なって、体調管理に努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々に合った役割作りや、趣味を活かした環境づくりに努めており、利用者が1日1日意味のある生活を送れるように支援している。		何事に対しても感謝の言葉を必ず声掛けし、利用者にとって意義のある内容になっていただけるよう配慮している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自身で管理できる最低限のお金を持っていただき、一緒に買い物へ行ったり、訪問販売(ヤクルトなど)を利用していただいたりしている。また、管理が難しい方には管理者が預かり金の管理を行なって、その都度対応している。		不安な部分は職員がお手伝いを行ない、なるべく本人が行えるよう支援を行っている。(金銭の感覚や理解を忘れないように)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の自己決定の権利を大切に、その日の希望に沿った外出支援を行っている。		自己決定が難しい方には、天候やそのときの体調などを見て、「ちょっと気分転換にドライブに行きませんか？」などと声掛けし、外出を楽しめるように努めている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節の行事に取り入れ(花見や紅葉見学など)、他施設や町内会の催し物に参加したりしている。また、請求書類と一緒に毎月送付しているお知らせの中に、行事への家族の参加の呼びかけを行って、気軽に参加していただける環境作りを行っている。		その都度行きたいところを普段の会話の中から聞き出し、行事に組み込むようにしている。今後は家族からも意見を聞き、楽しんでいただけるように企画していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	公衆電話がホーム内にあるため、自由に電話をかけることができ、また手紙のやり取りも気軽に行っている。		自身で行うことが難しい方には、職員が手紙や電話連絡時に受け答えを行なって対応している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間を特に設定しておらず、自由に訪問を受けられている。		面会時にはお茶や菓子をお出しして、寛いでいただけるように配慮している。また、近況報告をし、行事で撮影した写真などをお見せして、話題づくりの提供を行っている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、事例検討などを行って、身体拘束とは何かを理解し、実施しないケアに取り組んでいる。		定期的に勉強会を開催して、身体拘束防止の意識を高めている。また、少しでも疑問があるときは、職員間での話し合いや管理者への質問を出来るような環境作りを行っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が自ら鍵を掛けられることはあるが、それ以外では施錠することは無い。玄関も日中は常に出入りが自由となっているが、夜間は防犯の為時間を設定して施錠している。		ご家族や利用者には予め説明し、納得いただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>昼夜を問わず職員同士で連携をとり、所在の把握に努めている。</p>		<p>利用者の行動制限にならないよう、プライバシーに配慮した見守りや声掛けが出来るように配慮している。</p>
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>個人の持ち物は、利用者の状況に合わせて居室にて自由に使用していただいているが、明らかに危険なものや薬剤に関しては、職員がお預かりし、管理を行なっている。</p>		<p>職員が状況に合わせて、利用者に危険がないように物品の管理・保管に努めている。</p>
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>事故防止委員会を設置しており、事故が起きたときなどに話し合いを行ったり、事例検討などを通して、防止に努めている。</p>		<p>月に1度委員会での会議と勉強会を定期的に行い、防止に向けて意識を高めている。</p>
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>緊急時のマニュアルを帙作成しており、急変時に対応出来るよう職員へ勉強会などを通じて周知徹底を行っている。また、掲示してある書類もわかりやすく簡潔に作られている。</p>		<p>研修係を設置して勉強会を定期的に行い、対応している。</p>
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>地域の消防署に立ち会ってもらい、年に2回避難訓練を実施している。</p>		<p>防火管理者の有資格者がいるため、避難方法などの勉強会を定期的に行っている。</p>
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居時に入居窓口担当者と管理者から十分に説明を行い、必要であれば過去の事例等を用いてご家族に説明し、納得していただいている。</p>		<p>万が一リスクが生じた場合に対応出来るよう、職員も交えて話し合いが行われている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		<p>全職員が情報を共有できるような体制が取れており、医療連携看護師には24時間いつでも連絡可能な体制が整っている。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		<p>服薬に変更があった場合にも情報を共有して、不明な点は医療連携に確認することも出来るようになってきている。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		<p>利用者の便秘の状況に合わせて、排便を促すようなメニューをより多くしたり、下剤の調整を行ったりしている。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		<p>入れ歯の手入れや、磨きにくいところなどはお手伝いし、自立で出来る方も終わった後に声掛け確認をするなどして清潔保持に努めている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		<p>個々の体調や食事形態(キザミ食やお粥などの提供)を心掛け、全員が美味しく栄養を摂っていただけるように努めている。栄養士が常勤していないため、各種調理本や、母体の施設に勤務している栄養士に献立をみてもらい、助言をもらっている。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>感染症に関するマニュアルがあり、勉強会を行うなどして理解を深めるように実施している。</p> <p>感染症に関して正しい知識を身につけ、感染防止に努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理場や調理器具は毎日必ず消毒を行い、衛生環境の保持に努めている。		食品衛生管理者の有資格者がいるため、食中毒に関する勉強会を行い、手洗いやうがいの励行を行なっている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関周りに植物や季節に応じたもの(正月飾りや雛飾りなど)を置き、家庭的な雰囲気作りに配慮している。		今後も様々な工夫を行い、圧迫感を感じない雰囲気作りに努めたい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	家具などの配置を工夫し、利用者がどの場所においても寛いだり談笑出来るよう配慮している。また、季節の行事ごとに飾り付けや植物を置くなどして楽しめるよう努めている。		常に利用者が主役となり、居心地良く暮らしていけるような環境づくりを職員全員で取り組んでいる。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	各所に椅子やテーブルを配置し、利用者が好きな場所で寛いだり新聞を読むことが出来るようになっている。自室だけでなく、和室や多目的室等にも自由に出入りすることができるようになっている。		共有スペースであっても、一人ひとりが自由に過ごせるように職員が配慮し、その都度対応している。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居の際に本人とご家族と話し合い、長年使用されていたものを中心に持ってきていただき、なるべく本人の自室に近い形で家具などの配置を行っている。		特に制限を設けていないので、居室内に収まるものであれば希望されるものを出来るだけ持ってきていただき、本人が過ごしやすい環境作りを進めている。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	共有スペースに関しては利用者と話し合い、換気や温度調整を行っているが、個人の居室に関してはその都度職員がお部屋を訪問し、利用者が快適に過ごせる温度調整を行っている。		個々の好みに合わせて温度調整を行い、快適に過ごしていただけるように配慮している。また、季節に合わせた換気や温度調節もその都度行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>主要箇所には全て手すりが設置しており、床は全てバリアフリー設計になっているため、歩行器や車椅子の方も不便なく過ごされている。</p>	<p>個人の身体機能に合わせて、色んな使い方のできる設計になっている。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>職員がそれぞれに個々に合わせた支援を行ない、利用者が不安を感じないで安心して生活できるように援助を行っている。</p>	<p>そのときの利用者の状況を見て常に話し合いを行い、利用者が自分で出来る事を継続して行っていけるよう支援できるように努めている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭やベランダが整備されており、家庭菜園を行って豆やトマトなどの収穫を楽しんだり、日向ぼっこやバーベキューなども楽しまれている。</p>	<p>利用者は自由に出入りすることが出来、洗濯干しや草むしりなどその都度一緒に行いながら、利用者の身体機能の向上に活用されている。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>日常の会話の中から、利用者一人ひとりの生活暦や習慣などを汲み取り、個々にあった生活の支援をするように努めている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>お茶の時間や家事作業など、一緒にお茶を飲んだり作業をする時間が毎日の業務の中に組み込まれている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>食事の時間は大まかに決まっているが、ほとんどは利用者の好きなように生活が出来るように、職員の勤務時間の調整を行ない、対応出来るように努めている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>生き生きと生活していただけるように努力はしているが、職員の対応ひとつで変わってしまうこともあるため、今後も満足していただけるケアが出来るよう職員で取り組んでいきたい。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>ハッキリと希望を言えることができる利用者に対しては、行きたいところへ行く支援ができていますが、言えない方に関しては、こちらから声掛けを行って、ドライブや散歩に出かけているので、その部分では希望に添えているかどうか難しいところがある。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>定期的に医療連携看護師の健康管理を受けているため、不調があればすぐに対応できる体制になっている。また、かかりつけ医の協力もあり、通院できない場合には往診を行っていただき、ホームでの点滴治療などもしていただくことが出来ている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p> <p>ご家族の協力のもと、利用者の希望や要望があれば対応出来るように支援を行っている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p> <p>職員の異動が少ないため、ご家族とも馴染みの関係を築くことができています。そのため、その都度お話を聞き対応出来るようになっている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>運営推進会議時に民生委員や町内会のひとが訪ねてきて、利用者へ面会を行ったり、近所の託児所の子供たちが遊びにくることなどがある。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	広報誌を回覧板に入れていただいて、グループホームがどんなところなのかを認識していただいている様子。また、近隣住民から声掛けをしていただいたりすることも増えてきている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	管理者が利用者第一のケアを行えるように、職員の勤務調整を行ったりしているため、職員同士が相互理解に基づき業務を行えるようお互いに努力している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	個々の身体機能や状況に合ったケアの提供を行えるように努めていきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ご家族からは、ホームの理念やケアへのご理解・ご協力をいただいております。いつも安心してお任せできますとの声をいただいている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

理念に基づき利用者第一を合言葉に、職員同士が協力し合い、お互いの足りないところを補い合って業務にあたっている。また、利用者が自分のペースで生活が出来る様、大まかな時間の設定(食事や3時のおやつなどの時間など)はしているが、好きなときに起床したり入浴したりすることが出来るように、職員の勤務時間を設定している。提携のグループホームがあるため、情報交換や事業所内外の勉強会や研修に参加して職員のサービスの質の向上に努めている。